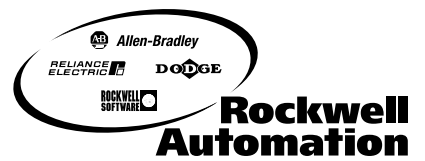




**RSView32** **TrendX™**  
Expand Your View  
with Trending

## Getting Results Guide

Doc ID 9399-TRENDXGRJA-APR00



Bringing Together Leading Brands in Industrial Automation

**ロックウェル・ソフトウェアへの連絡方法** テクニカルサポートの電話番号：1-440-646-7800 (米国)  
テクニカルサポートの Fax 番号：1-440-646-7801 (米国)  
World Wide Web サポートライブラリ：www.software.rockwell.com

**Copyright の注意事項** © 1999-2000 Rockwell Software Inc., a Rockwell Automation company. All rights reserved  
Printed in the United States of America  
Portions copyrighted by the Allen-Bradley Company, LLC, a Rockwell Automation company.  
当社の 事前の文書による承諾なしに、本ソフトウェアおよび本書の一部または全部を複製すること禁じます。

**商標** Rockwell Software logo, RSAlarm, RSAnimator, RSAssistant, RSBatch, RSBreakerBox, RSButton, RSChart, RSCompare, RSControlRoom, RSData, RSDataPlayer, RSEventMaster, RSGauge, RSJunctionBox, RSLogix Emulate 5, RSLogix Emulate 500, RSGuardian, RSHarmony, RSKeys, RSLadder, RSLadder 5, RSLadder 500, RSLinx, RSLogix 5, RSLogix 500, RSLogix Frameworks, RSLogix SL5, RSMailman, RSNetWorx for ControlNet, RSNetWorx for DeviceNet, RSPortal, RSPower, RSPowerCFG, RSPowerRUN, RSPowerTools, RSRules, RSServer32, RSServer, RSServer OPC Toolkit, RSSidewinderX, RSSlider, RSSnapshot, RSSql, RSToolbox, RSToolPak I, RSToolPak II, RSTools, RSTrainer, RSTrend, RSTune, RSVessel, RSView32, RSView32 Active Display System, RSView32 SPC, RSView32 TrendX, RSView, RSVisualLogix, RSWheel, RSWire, RSWorkbench, RSWorkshop, SoftLogix 5, A.I. Series, Advanced Interface (A.I.) Series, AdvanceDDE, AutomationPak, ControlGuardian, ControlPak, ControlView, INTERCHANGE, Library Manager, Logic Wizard, Packed DDE, ProcessPak, View Wizard, WINtelligent, WINtelligent LINX, WINtelligent LOGIC 5, WINtelligent Series, WINtelligent VIEW, WINtelligent RECIPE, WINtelligent VISION, および WINtelligent VISION2 は、Rockwell Software Inc., a Rockwell Automation company の商標です。

Data Highway Plus, DH+, DHII, DTL, MicroLogix, Network DTL, PLC, PLC-2, PLC-3, PLC-5, PowerText, Pyramid Integrator, PanelBuilder, PanelView, PLC-5/250, PLC-5/20E, PLC-5/40E, PLC-5/80E, SLC, SLC 5/01, SLC 5/02, SLC 5/03, SLC 5/04, SLC 5/05, および SLC 500 は、Allen-Bradley Company の商標です。LLC は、Rockwell Automation company の商標です。Microsoft, MS-DOS, Windows, および Visual Basic は、Microsoft Corporation の登録商標です。また、Windows NT, Windows 98, Microsoft Access, および Visual SourceSafe は商標です。

ControlNet は、ControlNet International の商標です。

DeviceNet は、Open DeviceNet Vendors Association の商標です。

Ethernet は、Digital Equipment Corporation, Intel, および Xerox Corporation の登録商標です。

Pentium は、Intel Corporation の登録商標です。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

IBM は、International Business Machines Corporation の登録商標です。AIX, PowerPC, Power Series, RISC System/6000 は、International Business Machines Corporation の商標です。

UNIX は、アメリカ合衆国およびその他の国で、X/Open Company Limited から排他的にライセンス契約された登録商標です。

AutoCAD は、Autodesk, Inc の登録商標です。

その他の商標は、それぞれの所有者は保有します。

**お客様へのご注意** ロックウェル・ソフトウェアの製品は、製品ライセンスに応じて保証されています。この製品の性能は、システム構成、実行するアプリケーション、オペレータ制御、およびその他の要因によって変わります。

本書の内容は、印刷時点での最新情報が反映されていますが、付属のソフトウェアは、それと異なっている場合があります。製品解消のため、仕様などを予告なく変更することがあります。

本書で示す図表やプログラム例は、本文を容易に理解できるように用意されているものであり、その結果としての動作を保証するものではありません。個々の用途については数値や条件が変わってくるが多いため、当社では図表などで示したアプリケーションを実際の作業で使用した場合の結果については責任を負いません。

**発行** 本版は、DOC ID 9399-RSVTDXGR (April 2000)の和訳です。9399-RSVTDXGR を正文とします。

# 目次

## 第1章

<b>RSView32 TrendX のインストール</b> .....	<b>1</b>
RSView32 TrendX について .....	2
システム要件 .....	2
RSView32 TrendX のインストール .....	2
インストールの手順 .....	3
Active Display クライアントへの ActiveX コントロールのインストール	3

## 第2章

<b>Getting Started with RSView32 TrendX</b> .....	<b>5</b>
ようこそ RSView32 TrendX へ .....	6
RSView32 TrendX の詳細 .....	6
データ値のモニタ .....	7
リアルタイムデータへの履歴データのオーバーレイ .....	8
テンプレートの使用による一貫したトレンドビューの作成 .....	9
実行中のトレンドプロパティの変更 .....	9
トレンドデータのスクロール、ズーム、およびパン .....	10
オブジェクトモデルによる TrendX 機能の自動化 .....	11
クイックスタートの手順 .....	12
ステップ 1 ■ TrendX チャートの構成 .....	12
ステップ 2 ■ 詳細な構成オプション .....	13
ステップ 3 ■ スナップショットファイルのキャプチャおよび オーバーレイ .....	14
ステップ 4 ■ テンプレートの作成および適用 .....	15
ステップ 5 ■ 実行時の柔軟性の詳細 .....	16

## 第3章

<b>必要な情報の取得方法</b> .....	<b>17</b>
RSView32 TrendX オンラインヘルプの使用方法 .....	18
ヘルプの目次の表示および印刷 .....	18
ポップアップヘルプ内のトピックの印刷 .....	19

索引の使用方法 .....	20
オンラインヘルプの使用方法に関する追加情報 .....	20
RSView32 TrendX バージョン情報の検索 .....	20
RSView32 TrendX サンプルプロジェクトの実行 .....	21
詳細情報 .....	21
テクニカルサポート .....	21

<b>索引 .....</b>	<b>23</b>
-----------------	-----------

# 第 1 章

## RSView32 TrendX のインストール

RSView32 TrendX について	2
システム要件	2
RSView32 TrendX のインストール	2
インストールの手順	3
Active Display クライアントへの ActiveX コントロールのインストール	3

## RSView32 TrendX について

RSView32 TrendX™ は、リアルタイムおよび履歴処理データをモニタするための ActiveX コントロールです。また、TrendX はデータを収集する際に、ストリップ・チャート・レコーダ・ディスプレイも提供します。

## システム要件

RSView32 TrendX は、RSView32 Ver. 6.1 以降が必要です。RSView32 TrendX に推奨される必要条件是 RSView32 の必要条件に基づいていますが、プロジェクトの規模や複雑さによっては、より高速なプロセッサやより多くの RAM が必要になります。

**推奨ハードウェア：** 200MHz Intel® Pentium® プロセッサおよび 64M バイトの RAM が搭載されたパーソナルコンピュータ。個々のアプリケーションにより、より高速なプロセッサやより多くの RAM が必要になることもあります。推奨値の詳細は、ロックウェル・ソフトウェアのサポート・ライブラリ <http://support.software.rockwell.com/supportlibrary/> でテクニカルノート A1191 を参照してください。

**推奨オペレーティングシステム：** Microsoft® Windows NT® ワークステーション、Ver. 4.0 (Service Pack 6a 付き)、Windows® 95/98 および Windows 2000 もサポート (RSView32 6.3 が必要)。

## RSView32 TrendX のインストール

以下の手順では、RSView32 Extensions CD-ROM からコンピュータに RSView32 TrendX ソフトウェアをインストールする方法を説明します。RSView32 TrendX をインストールする前に、RSView32 6.1 以降または RSView32 Active Display System のいずれかがコンピュータにインストールされていることを確認してください。

RSView32 TrendX は、インストールプロセス中にプログラムフォルダを作成し、オペレーティングシステムのレジストリエントリを修正します。RSView32 TrendX を Windows NT 上にインストールするときは、インストールプログラムでレジストリを修正できるように、管理者権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

## インストールの手順

1. 開いている Window プログラムをすべて閉じます。
2. RSView32 Extensions CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入します。  
CD-ROM は、自動的に起動されるはずですが、  
CD-ROM が自動的に起動しない場合は、D:\START.EXE を実行してください。D は CD-ROM が挿入されているドライブです。
3. セットアッププログラムがインストール可能な RSView32 のアドオン製品のリストを表示します。RSView32 TrendX の対応するボタンをクリックして、画面に表示される指示に従います。
4. Select Component ウィンドウで、**Full Install** または **Controls Only** のいずれかを選択します。
  - RSView32 TrendX 開発システムおよび実行時システムをすべてインストールするときは、Full Install を選択します。
  - RSView32 TrendX ActiveX コントロールと RSView32 Active Display System クライアントをインストールするときは、Controls Only を選択します。
5. インストールが完了したら、RSView32 を実行する前に必ずコンピュータをシャットダウンして再起動してください。

## Active Display クライアントへの ActiveX コントロールのインストール

RSView32 Active Display System を実行するときは、グラフィックスディスプレイに表示するために、ActiveX コントロールが Active Display Station またはクライアントコンピュータにインストールされていることが必要です。RSView32 Active Display System (Ver. 6.2 以降)は必要に応じて、.CAB ファイルと Microsoft Internet Explorer を使用して、ActiveX コンポーネントを分散できます。

RSView32 TrendX など RSView32 Special Edition ソフトウェアのすべてのコンポーネントには、自動インストールを可能にする.CAB ファイルが含まれています。すべてのクライアントコンピュータに TrendX ActiveX コントロールをインストールする必要はありませんが、個々のクライアントコンピュータ上の Microsoft Internet Explorer に特定のオプションを設定する必要があります。詳細は、ロックウェル・ソフトウェアのサポート・ライブラリ <http://support.software.rockwell.com/supportlibrary/> でテクニカルノート A1403 を参照してください。

## Internet Explorer の構成

以下の手順は、Microsoft Internet Explorer Ver. 4.0 および 5.0 を対象としています。

1. Windows Star メニューから、Start > Settings > Control Panel の順に位置付けます。
2. Internet アイコンをダブルクリックして、そのプロパティを開きます。
3. Genera タブ上で、Settings ボタンをクリックします。
4. Every Visit to the Page オプションを選択します。OK をクリックします。
5. Security タブをクリックします。
6. クライアントコンピュータが Active Display Station と同じイントラネット上にある場合は、Local Intranet Zone を選択します。Active Display Station がローカルではない場合は、Trusted Sites Zone を選択して、サーバコンピュータを Site リストに追加します。(Internet Explorer 4.0 を使用しているときは、Reset ボタンをクリックします。)
7. 以下の方法を使用して、Security Setting ウィンドウを開きます。
  - Internet Explorer 5.0 を使用しているときは、Custom Level ボタンをクリックします。
  - Internet Explorer 4.0 を使用しているときは、Internet Zone ボックスで、Custom を選択してから、Settings ボタンをクリックします。
8. Security Setting ウィンドウで、オプション Download Unsigned ActiveX Controls を Prompt または Enable のいずれかに設定します。OK をクリックします。
9. OK をクリックして、Internet Propertie ウィンドウを閉じます。

---

### ヒント

RSView32 6.2 以降で保存される RSView32 グラフィックファイル(.GFX)だけが ActiveX .CAB ファイルの自動インストールをサポートしています。

---

# 第 2 章

## Getting Started with RSView32 TrendX

ようこそ RSView32 TrendX へ .....	6
RSView32 TrendX の詳細 .....	6
データ値のモニタ .....	7
リアルタイムデータへの履歴データのオーバーレイ .....	8
テンプレートの使用による一貫したトレンドビューの作成 ..	9
実行中のトレンドプロパティの変更 .....	9
トレンドデータのスクロール、ズーム、およびパン .....	10
オブジェクトモデルによる TrendX 機能の自動化 .....	11
クイックスタートの手順 .....	12
ステップ 1 ■ TrendX チャートの構成 .....	12
ステップ 2 ■ 詳細な構成オプション .....	13
ステップ 3 ■ スナップショットファイルのキャプチャ およびオーバーレイ .....	14
ステップ 4 ■ テンプレートの作成および適用 .....	15
ステップ 5 ■ 実行時の柔軟性の詳細 .....	16

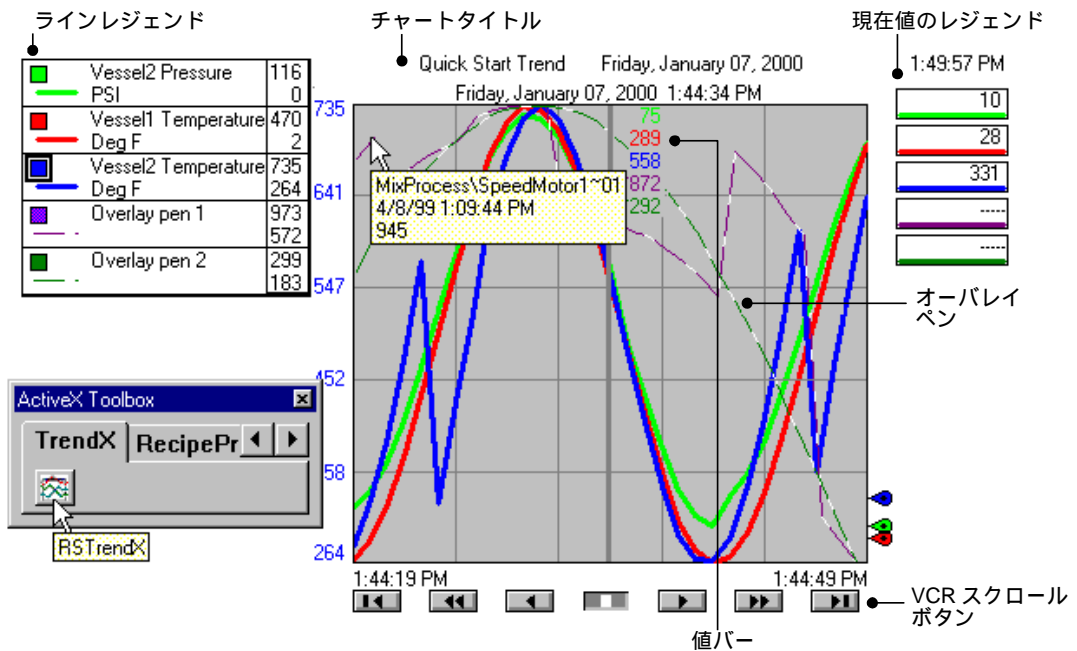
# ようこそ RSVIEW32 TrendX へ

TrendX は、RSView32, RSLogix™, または Microsoft® Visual Basic™ などのソフトウェアコンテナに埋め込まれる ActiveX コントロールで、リアルタイムおよび履歴トレンド分析を可能にします。

TrendX を使用するには、RSView32 グラフィックスディスプレイに TrendX ActiveX コントロールを埋め込んで、RSView32 データログからのデータを表示するように構成します。実行時チャート上のペンは、TrendX コントロールに追加したタグからのデータを表します。TrendX は広範囲に渡り、柔軟な実行時制御を行ないます。実行中のペンの追加、絶縁または重複したトレンド線間での切換え、独自の線構成の指定、XY プロットのある変数を他の変数と対比させたプロット、チャートデータの印刷が可能です。

## RSView32 TrendX の詳細

TrendX は、RSView32 ActiveX ツールバーに組込むことができます。単純にクリック&ドラッグするだけで、TrendX ActiveX コントロールを RSView32 グラフィックスディスプレイに埋め込むことができます。RSView32 TrendX コントロールには、編集モードと実行時のどちらでも構成可能な豊富なプロパティセットが組み込まれています。



## データ値のモニタ

1つの TrendX コントロールで、最大 100 個のタグの値を表示することができます。

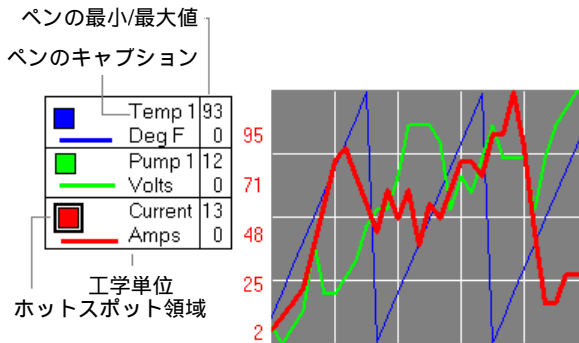
Trend プロパティタブには、以下の機能があります。

- RSVIEW32 プロジェクトからタグおよび履歴データログモデルを検索する。
- データログモデルのすべてのタグまたは選択したタグのみを TrendX コントロールに追加する。
- リアルタイムデータをモニタするタグを個々に選択する。

個々のタグは、TrendX チャート上にグラフ表示されるペンに対応するデータを示しています。個々のペンに対して、色、可視性、幅、タイプ(アナログ、デジタル、全幅)、スタイル(点線、破線、実線)、各データポイントのプロット・シンボル・マーカ、工学単位、テキスト説明などの属性を設定することができます。

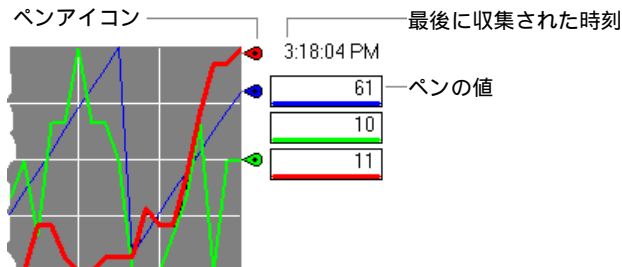
### ラインレジェンド

チャートの左側にあるオプションのラインレジェンドは、各ペンに設定された属性を表します。設定されている場合、実行時に黒色で囲まれたホットスポット領域をダブルクリックすると、対応するプロパティタブが表示され、そこで即座に変更することができます。



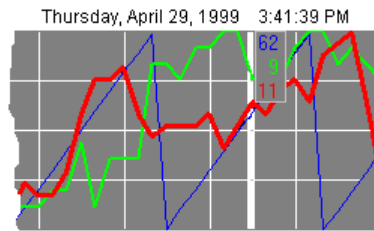
### 現在値レジェンド

チャートの右側にあるオプションの現在値レジェンドは、ペンアイコン、ペンの現在値、およびデータが最後に収集された時刻を表すことができます。



## 値バー

実行時に、チャート上のポイントをクリックするだけで、TrendX はペンの数値と日付および時刻を示す値バーを横方向に表示します。

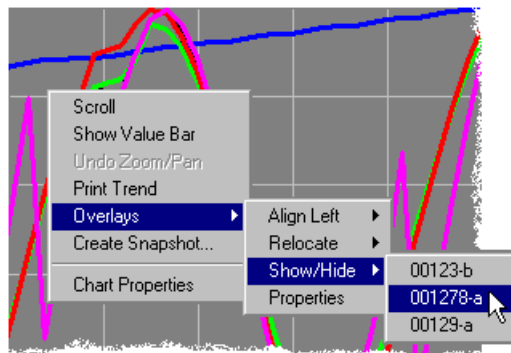


値バー

## リアルタイムデータへの履歴データのオーバレイ

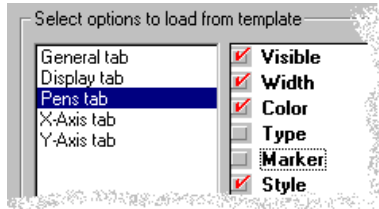
TrendX を使用すると、グラフ表示されるデータのスナップショットをキャプチャして、ファイル名を付けてそのデータを保存し、保存したデータを現在のトレンドデータの上に配置することができます。この機能により、履歴データを現在のデータまたは複数のデータセットと簡単に重ね合わせて比較できます。

実行時にマウスの右ボタンをクリックして、コンテキストメニューから、オーバレイ機能へのアクセスの許可または禁止を TrendX コントロールに設定することができます。



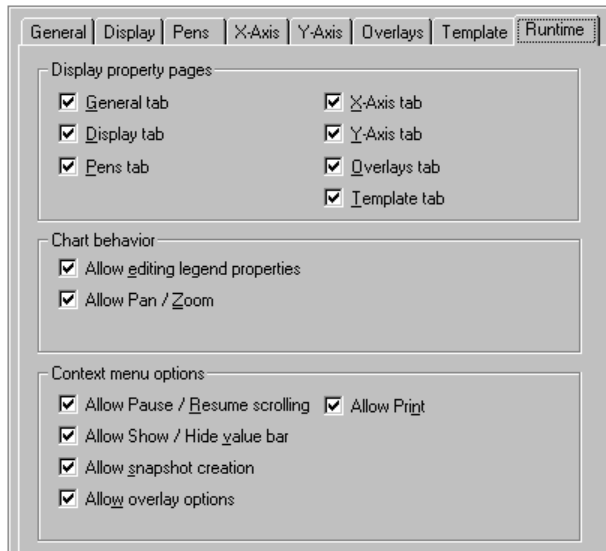
## テンプレートの使用による一貫したトレンドビューの作成

TrendX チャートに関する構成設定をテンプレートに保存し、その設定を他のトレンドチャートに適用すると、一貫した外観が得られます。テンプレートは、同じデータの数種類のビューを作成したり、表示オプションを試した後に、標準の表示にすばやく戻るときにも役立ちます。



## 実行中のトレンドプロパティの変更

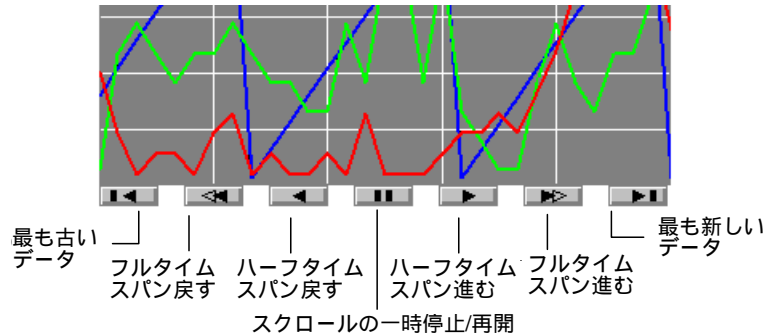
TrendX は、実行時に並はずれた柔軟性を発揮します。構成中に、オペレータが実行時にアクセスできるプロパティを決定します。タブ付きのプロパティページごとに表示するか隠すか、実行中の特定のチャートのビヘイビア(振る舞い)を許可するか、禁止するかを TrendX チャートに構成し、マウスの右ボタンをクリックすると表示されるコンテキストメニューに表示するオプションを指定することができます。



## トレンドデータのスクロール、ズーム、およびパン

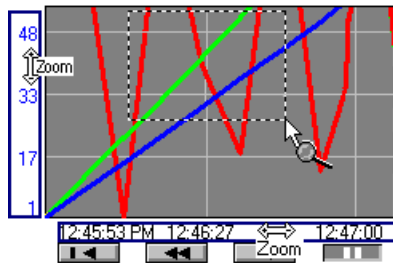
VCR 形式のコントロールボタンとキーボードコマンドを使用すると、実行時データ全体を迅速にかつ簡単にナビゲートすることができます。TrendX コントロールの構成で許可されていれば、チャート上でクリック&ドラッグして、特定のデータにズームインして詳細を参照したり、データ全体をすばやくパンすることもできます。

### VCR ボタンを使用したデータのスクロール



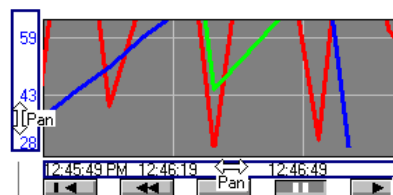
### 綿密な調査のためのズームイン

選択した領域にズームできるまでチャート上をクリックしてドラッグする。



Y 軸または X 軸レジェンドでマウスの右ボタンをクリックしてから、マウスをドラッグする。

### 迅速なデータのパン

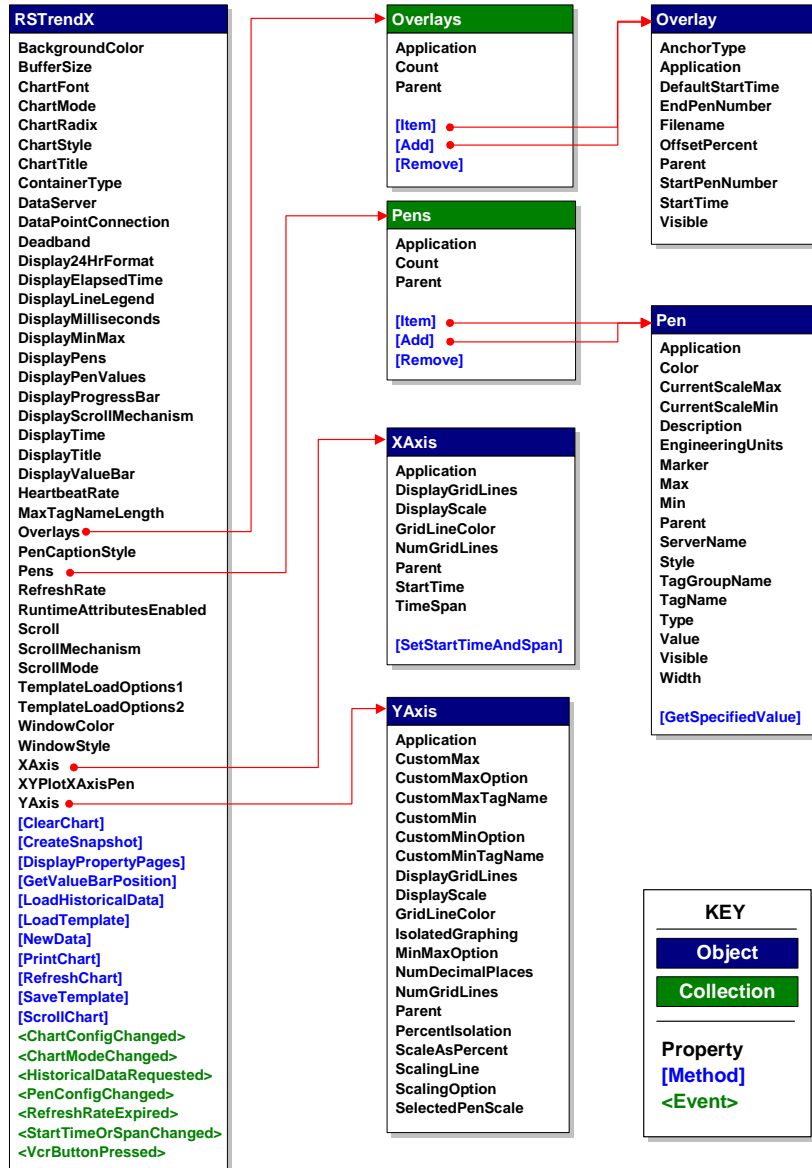


Y 軸または X 軸レジェンドでクリックしてからドラッグする。

スクロールを一時停止する。

## オブジェクトモデルによる TrendX 機能の自動化

TrendX は、RSView32 に埋め込まれたプログラミング言語、Microsoft Visual Basic for Applications™からのプログラミングアクセスを可能にするオブジェクトモデルも公開しています。例えば、TrendX オブジェクトモデルを使用して、RSView ボタンに TrendX プロパティタブを開く、チャートを印刷する、テンプレートをロードする、などのコマンドを割当てることができます。詳細は、TrendX オンラインヘルプを参照してください。



## クイックスタートの手順

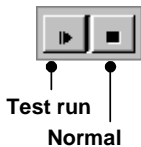
以下の手順は、単純な TrendX チャートを構成し、実行する方法を説明しています。この例では、すでにデータログモデルが作成されている TrendX サンプルプロジェクトを使用します。

**ヒント** 以下の手順を実施しているときにより詳細な情報が必要になった場合は、任意のタブの上で、Help ボタンをクリックしてください。

### ステップ 1 ■ TrendX チャートの構成

以下の手順では、Trend チャートを素早く構成するためにデフォルト設定を使用します。

1. RSView32 を起動して、TrendX Sample.rsv という名前のプロジェクトを開きます。  
Star メニューから、Programs > Rockwell Software > TrendX > TrendX Sample Project を順に選択するか、または RSView32 TrendX がインストールされたディレクトリで、TrendX Sample.rsv を探します。
2. RSView32 プロジェクトマネージャから、新しいグラフィックディスプレイを作成します。
3. TrendX Active コントロールを埋め込みます。  
ActiveX ツールボックスを使用して ActiveX コントロールを埋め込むか、または RSView32 メニューから Objects > ActiveX Control を選択します。
4. コントロールをマウスの右ボタンでクリックして、RSTrendX object > Properties を選択します。
5. Pens タブで、Add/Configure Tag ボタンをクリックします。
6. Historical Tag Group ボックスのタグから、CureProc という名前のデータログモデルを選択してから、Add All ボタンをクリックします。  
CureProc データログモデルに含まれているすべてのタグが Tags to Monitor ボックスに移動したことを確認します。
7. OK をクリックして、Configure Tag ウィンドウを閉じます。  
CureProc データログモデルのタグが Pens タブの Pen Attributes ボックスに表示されていることを確認します。
8. OK をクリックして、TrendX property タブを閉じます。
9. RSView32 ツールバーで、Test Run ボタンをクリックします。  
CureProc データログモデルに含まれているタグからのデータがチャートにシミュレートされる様子を監視します。
10. テストランを終了するには、RSView32 ツールバーで Normal ボタンをクリックします。
11. グラフィックディスプレイに QuickStart という名前を付けて保存します。画面上のグラフィックディスプレイは開いたままにしておきます。



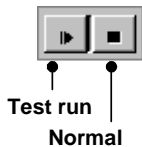
## ステップ 2 ■ 詳細な構成オプション

使用可能な構成オプションについては、TrendX プロパティタブの Help ボタンをクリックしてください。

1. 作成した QuickStart グラフィクスディレプレイで、TrendX コントロールをマウスの右ボタンでクリックしてから、RSTrendX object > Properties を選択します。
2. General タブで、チャートのタイトルを Quick Start Trend に変更します。
3. Display タブで、以下の変更を行ないます。
  - 背景の色をライトグレーに変更する。
  - Line Legend ボックスで、Display min/max values の選択を解除する。
  - Line Legend ボックスで、Pen Caption を Description に変更する。
4. Pens タブで、すべてのペンの幅を 3 に変更します。

すべてのペンの幅を一度に変更するには、はじめに Pen Attributes ボックスで [Ctrl] キーを押しながら個々のタグ名をクリックして、すべてのペンを選択します。Multiple Pen Edits ボックスで、Width をクリックして 3 を選択してから、Apply to Selected Pens ボタンをクリックします。

5. X-Axis タブで、タイムスパン(時間の間隔)を 30sec に変更します。
6. Y-Axis タブで、Isolated Graphing を選択します。
7. OK をクリックして、TrendX プロパティを閉じて変更を有効にします。
8. RSView32 ツールバーで、Test Run ボタンをクリックします。  
チャートの表示が変わったことを確認します。
9. テストランを終了するには、RSView32 ツールバーで Normal ボタンをクリックします。



### ステップ3 ■ スナップショットファイルのキャプチャおよびオーバーレイ

1. TrendX コントロール・プロパティ・タブを使用して、ペン、開始日付および時刻、期間、およびスナップショットファイルに含めるその他のトレンドオプションを設定します。
2. RSView32 プロジェクトを実行します。

TrendX Sample.rsv プロジェクトで作業を行なっている場合は、開いている MainTrend ディスプレイを閉じてから、前のステップで作成した QuickStart ディスプレイを開きます。
3. チャートで最低 1 分間はデータをモニタできるようにします。
4. チャートデータをキャプチャするには、コントロールをマウスの右ボタンでクリックしてから、Create Snapshot を選択します。スナップショットにファイル名を付けて保存します。
5. スナップショットファイルを現在のチャートに追加するには、コントロールをマウスの右ボタンでクリックしてから、Chart Properties を選択します。
6. Overlays タブで、Add ボタンをクリックします。新しいスナップショットファイル名を選択して、Open をクリックします。

Overlays タブの Overlay Attributes ボックスに、追加されたスナップショットファイルがリストされます。
7. Pens タブをクリックして、スナップショットファイルのタグが Pen Attributes ボックスにリストされていることを確認します。

スナップショットファイルのペンの属性は、他のペンの属性と同様に変更することができます。
8. TrendX プロパティタブを閉じるには、OK をクリックします。

今度は、実行時チャートには、スナップショットファイルのペンが他のペンの上に重ねて表示されます。
9. オーバーレイの位置を決めるには、チャートを右クリックして、Overlays > Relocate > スナップショットファイル名の順に選択します。

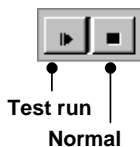
カーソルの形状が両方向矢印の形になります。クリック&ドラッグして、オーバーレイをチャート上に位置付けます。

さらに厳密に制御したい場合は、Overlays タブを使用して、位置または時刻でスナップショットファイルを固定します。チャートを右クリックして、Overlays > Properties を選択します。Anchor 行をクリックすると、位置と時刻の間で設定が切り換わります。
10. プロジェクトの実行を終了して、編集モードに戻ります。

## ステップ 4 ■ テンプレートの作成および適用

この例では、現在のチャート構成の一部をテンプレートとして保存し、そのテンプレートをトレンドチャートに適用します。

1. 前のステップで作成した QuickStart ディスプレイで、TrendX コントロールのプロパティタブを開きます。ディスプレイが、テスト・ラン・モードではなく、ノーマルモードであることを確認します。
2. Template タブをクリックします。オプションボックスの左側で、個々のプロパティタブ名をクリックして選択します。ボックスの右側で、デフォルトとしてすでに選択されている構成オプションを確認します。この例では、すべてのデフォルト設定を新しいテンプレートに保存します。
3. Save Template ボタンをクリックします。例えば QuickStart Template のようなファイル名を指定します。
4. 次に、現在のチャートにいくつかの変更を加えます。
  - General タブで、Chart Title の選択を解除する。
  - Display タブで、Current Value Legend オプションと Line Legend オプションの選択を解除する。背景の色を明るい黄色に変更する。
  - Pens タブで、最初のペン以外のすべてのペンに対する Visibility (可視性)をオフにする。
5. OK をクリックして、プロパティタブを閉じます。RSView32 ツールバーにある Test Run ボタンをクリックし、チャートの表示が変更されたことを確認します。次に、Normal ボタンをクリックしてテストランを終了します。
6. 今度は、テンプレートを適用します。チャートをマウスの右ボタンでクリックして、TrendX プロパティを開きます。
7. Templates タブで、Load Template ボタンをクリックします。作成したテンプレートファイルの名前を選択してから、Open をクリックします。
8. TrendX プロパティタブを閉じるには、OK をクリックします。
9. RSView32 ツールバーにある Test Run ボタンをクリックして、テンプレートをロードした影響を確認します。編集モードに戻るには、Normal ボタンをクリックします。



### ヒント

TrendX Sample.rsv プロジェクトには、アプリケーションでのテンプレートの使用例がいくつか含まれています。

## ステップ 5 ■ 実行時の柔軟性の詳細

TrendX コントロールの構成方法によって、構成可能なプロパティのほぼすべてをオペレータが実行時に使用できるようにすることも、一切使用できないようにすることも可能です。この例では、実行時に使用可能なオプションをいくつか取り上げます。

1. 前のステップで作成した QuickStart ディスプレイで、TrendX コントロールのプロパティを開いてから、Runtime タブをクリックします。

オペレータが実行時に使用することを許可または禁止できるオプションが多数あることがわかります。(これらのオプションの詳細は、タブの Help ボタンをクリックしてください。)

2. TrendX プロパティタブを閉じます。Quick Start グラフィックスディスプレイを保存します。(ディスプレイが、テスト・ラン・モードではなく、ノーマルモードであることを確認します。)
3. RSView32 サンプルプロジェクトを実行します。最初に開いた MainTrend ディスプレイを閉じてから、Quick Start グラフィックスを実行します。
4. チャートをクリックして、値バーを表示します。

5. チャートをマウスの右ボタンでクリックして、コンテキストメニューで使用可能なオプションを確認します。Chart Properties を選択します。任意のタブを使用して、チャートを変更し、次に OK をクリックして、プロパティタブを閉じます。

Runtime タブを除くすべての TrendX プロパティタブは、作業に使用できます。

変更内容は、実行時チャートでただちに有効になりますが、そのチャートには変更が保存されません。

6. マウスポインタをラインレジェンドと現在値レジェンドに移動し、青色で囲まれたボックスを確認します。ボックスが表示されたら、その内側をダブルクリックし、使用可能なオプションに注意します。
7. データ全体をパンするには、チャート左側にある Y 軸レジェンド内部でマウスポインタをクリック&ドラッグします。それから、チャート最下部の X 軸レジェント内部でマウスポインタをドラッグします。
8. データにズームインするには、チャート上でクリック&ドラッグします。再度ズームアウトするには、チャートをマウスの右ボタンでクリックしてコンテキストメニューを表示してから Undo Zoom/Pan を選択します。
9. 調査が終了したら、Quick Start ディスプレイを閉じます。MainTrend ディスプレイを実行し、既製のサンプルプロジェクトを調査します。

### ヒント

サンプルプロジェクトに関するヘルプを参照するには、任意のグラフィックスディスプレイ上の疑問符マーク(?)ボタンをクリックして、オンラインヘルプを開きます。

# 第 3 章

## 必要な情報の取得方法

RSView32 TrendX オンラインヘルプの使用方法 .....	18
ヘルプの目次の表示および印刷 .....	18
ポップアップヘルプ内のトピックの印刷 .....	19
索引の使用方法 .....	20
オンラインヘルプの使用方法に関する追加情報 .....	20
RSView32 TrendX バージョン情報の検索 .....	20
RSView32 TrendX サンプルプロジェクトの実行 .....	21
詳細情報 .....	21
テクニカルサポート .....	21

## RSView32 TrendX オンラインヘルプの使用方法

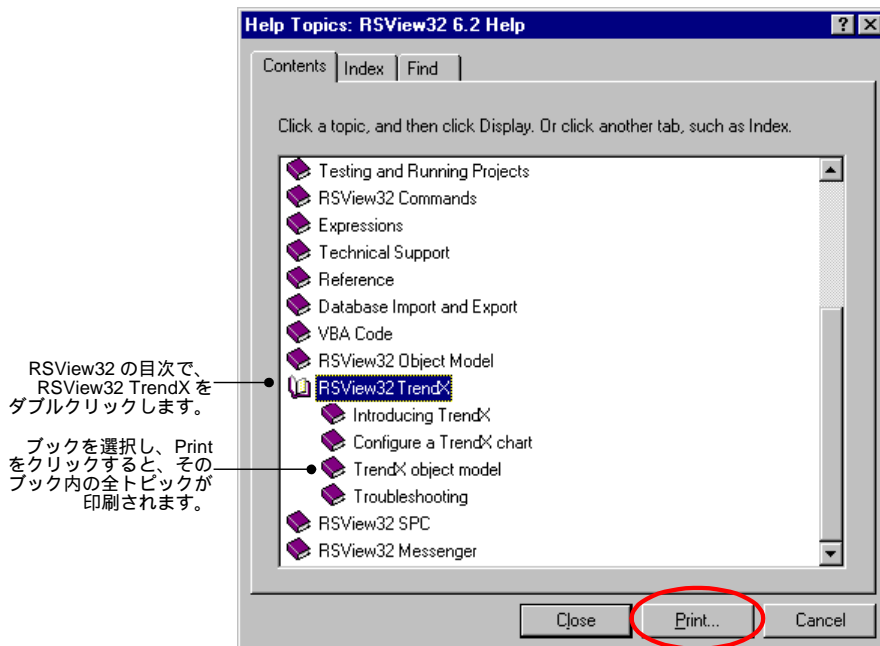
RSView32 TrendX オンラインヘルプは、RSView32 TrendX の概要、参照情報を提供し、全機能の使用方法を手順に沿って解説します。RSView32 の実行中にオンラインヘルプを開くには、以下のいずれかを実行します。

- 任意のウィンドウで Help ボタンをクリックする。
- RSView32 メニューバーで、Help をクリックしてから Contents をクリックする。

### ヘルプの目次の表示および印刷

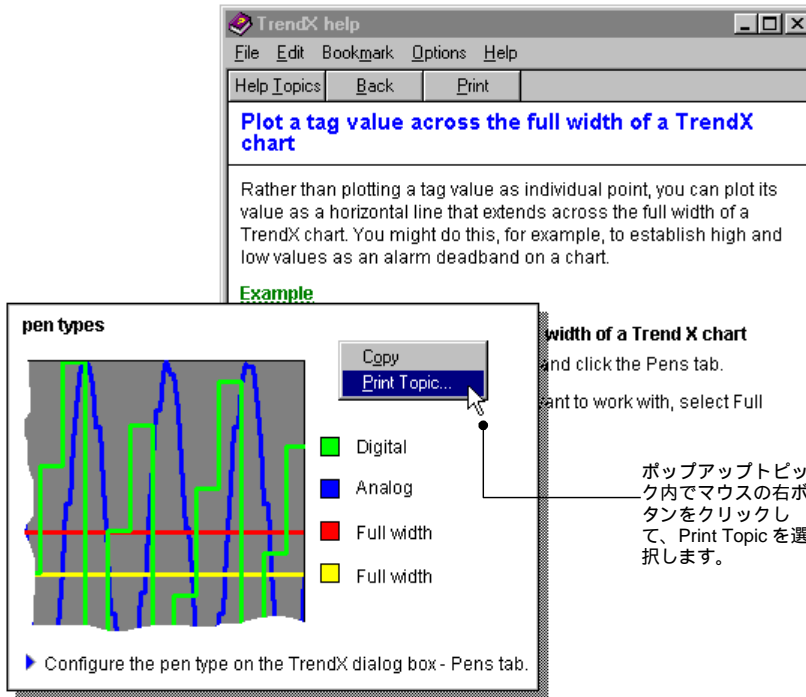
RSView32 TrendX ヘルプの概要を表示するには、Contents タブをクリックしてから RSView32 TrendX ブックをダブルクリックします。

ヘルプトピックの一部を印刷するには、Contents タブでブックを選択してから、Print ボタンをクリックします。そのブックに含まれているすべてのトピックが印刷されます。



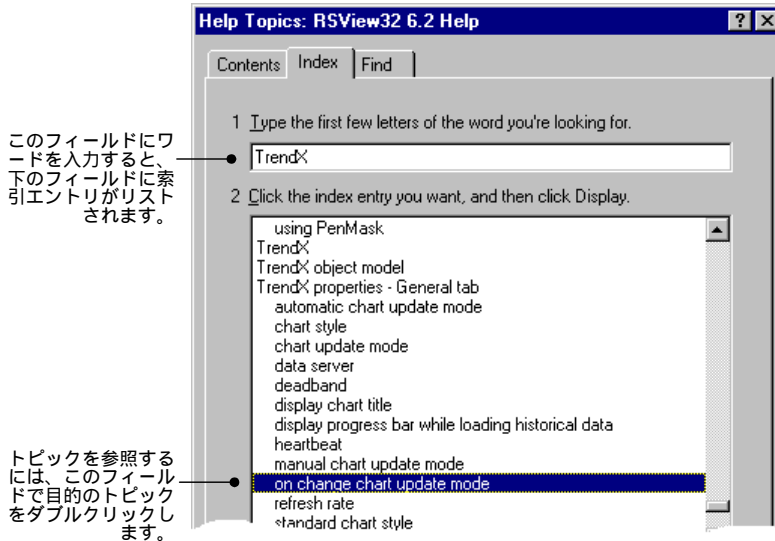
## ポップアップヘルプ内のトピックの印刷

ポップアップウィンドウ内のトピックを印刷するには、そのトピックを右クリックして、コンテキストメニューから Print Topic を選択します。



## 索引の使用方法

ヘルプの索引は本の索引とよく似ており、ヘルプ内のトピックを表すキーワードがリストになっています。索引を表示するには、Index タブをクリックします。



## オンラインヘルプの使用方法に関する追加情報

組込み型のヘルプシステムを最大限に利用するためのヒントとコツを習得するには、RSView32 メニューバーで、Help>Using Help をクリックします。

## RSView32 TrendX バージョン情報の検索

RSView32 TrendX のバージョンおよびシリアルナンバーを検索するには、Help>About RSView32 をクリックし、Add-ons ボタンをクリックします。TrendX を選択してから、Details ボタンをクリックします。

## RSView32 TrendX サンプルプロジェクトの実行

動作中の TrendX データを参照し、独自の TrendX ディスプレイを RSView32 内に作成するための情報を得るには、RSView32 TrendX サンプルプロジェクト全体に目を通します。Start メニューから、Programs > Rockwell Software > TrendX > TrendX Sample Project の順に選択するか、または RSView32 TrendX がインストールされたディレクトリで TrendX Sample.rsv を探します。

---

**ヒント**

ファイルを素早く検索するには、Windows の Start メニューから、Find > Files or folders の順に選択します。

---

## 詳細情報

RSView32 の詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

**Getting Results with RSView32**

Rockwell Software  
DOC ID : 9399-2SE32GR

**Getting Results with RSView32 Active Display system**

Rockwell Software  
DOC ID : 9399-RSVADSGR

**RSView32 ユーザーズガイド**

Rockwell Software  
DOC ID : 9399-2SE32UG  
RSView32 のインストール  
CD-ROM や、Programs>Rockwell  
Software>RSView32 メニューから  
も参照できます。

## テクニカルサポート

RSView32 TrendX に関する疑問点があるときは、本書や RSView32 TrendX オンラインヘルプを参照してください。または、Help>Rockwell Software on the Web の順にクリックし、ホームページを選択して参照します。Rockwell Software on the Web を使用するには、コンピュータに Web ブラウザがインストール済みで、その時点でインターネットに接続されている必要があります。

それでも問題が解決されない場合は、当社にお問い合わせください。

その際には、RSView32 TrendX を実行中のコンピュータを操作できる状態で、以下の情報をご用意ください。

- 製品のバージョン番号
- ご使用のハードウェアのタイプ
- 画面に表示された正確なメッセージの内容
- 発生した問題と、その問題発生時に取った処置の説明
- 問題を解決するために取った処置の説明



# 索引

## A

Active Display  
ActiveX コントロールの  
自動インストール ▪ 3

## C

CAB ファイル  
ActiveX コントロールの  
自動インストール ▪ 3  
Internet Explorer の構成 ▪ 3  
Controls Only インストール ▪ 3

## D

Display タブ  
例 ▪ 13

## E

Edit プロパティタブ  
TrendX コントロールの右クリック ▪ 12

## F

Full Install ▪ 3

## G

General タブ  
例 ▪ 13

## I

Internet Explorer  
ActiveX コントロールの  
自動インストール ▪ 3  
Isolated graphing  
Y-Axis タブで ▪ 13

## P

Pens タブ  
例 ▪ 13

## R

RSView32 Active Display System  
ActiveX コントロールの  
自動インストール ▪ 3  
RSView32 TrendX  
インストール ▪ 2  
概要 ▪ 6  
クイックスタートの手順 ▪ 12  
サンプルプロジェクト ▪ 21  
RSView32 TrendX のインストール  
Active Display クライアントの  
自動インストール ▪ 3  
Controls Only ▪ 3  
Full Install ▪ 3  
インストール手順 ▪ 2, 3

## T

TrendX コントロールの組込み  
グラフィックスディスプレイで ▪ 12

## X

X-Axis タブ  
例 ▪ 13

## Y

Y-Axis タブ  
例 ▪ 13

## あ

### 値バー

実行時の表示 ▪ 16

## い

### 色

背景の色の変更 ▪ 13

## お

### オーバーレイ

例 ▪ 8

スナップショットファイル ▪ 14

## く

### クイックスタート

実行時の柔軟性の詳細 ▪ 16

スナップショットファイルのキャプチャ  
およびオーバーレイ ▪ 14

テンプレートの作成および適用 ▪ 15

## け

### 現在値レジェンド

Display タブで ▪ 13

表示/非表示 ▪ 13

例 ▪ 7

## こ

### 構成

実行時オプション ▪ 16

テンプレート ▪ 15

## さ

### 作成

スナップショットファイル ▪ 14

### サンプルプロジェクト

クイックスタート手順を使用 ▪ 12

ディレクトリ ▪ 21

## し

### 実行時

構成オプション ▪ 16

データ全体のパン ▪ 16

データのズームイン ▪ 16

## す

### スナップショットファイル

作成 ▪ 14

例 ▪ 8

### ズーム

実行時 ▪ 16

## た

### タイトル

変更 ▪ 13

### タイムスパン(時間間隔)

X-Axis タブで ▪ 13

### タグの追加

データログモデルから ▪ 12

## ち

### チャートのタイトル

General タブで ▪ 13

## て

### データログモデル

タグの追加 ▪ 12

## は

### 背景の色

Display タブで ▪ 13

### 幅

ペンの変更 ▪ 13

### パン

実行時 ▪ 16

## ふ

複数のペンの編集

例 ▪ 13

## へ

ヘルプ

サンプル TrendX プロジェクト ▪ 21

変更

Isolated graphing ▪ 13

現在値レジェンド ▪ 13

タイムスパン(時間間隔) ▪ 13

チャートのタイトル ▪ 13

背景の色 ▪ 13

複数のペンのオプション ▪ 13

ペンの色 ▪ 13

ペンのキャプション ▪ 13

ペンの幅 ▪ 13

ラインレジェンド ▪ 13

ペンのキャプション

オプションの変更 ▪ 13

## ら

ラインレジェンド

オプションの変更 ▪ 13

## り

履歴データ

トレンドチャートのオーバーレイ ▪ 8

## れ

レジェンド

現在値レジェンド ▪ 7, 13

ラインレジェンド ▪ 13





---

**Reach us now at [www.rockwellautomation.com](http://www.rockwellautomation.com)**

Wherever you need us, Rockwell Automation brings together leading brands in industrial automation including Allen-Bradley controls, Reliance Electric power transmission products, Dodge mechanical power transmission components, and Rockwell Software. Rockwell Automation's unique, flexible approach to helping customers achieve a competitive advantage is supported by thousands of authorized partners, distributors and system integrators around the world.



**Americas Headquarters**, 1201 South Second Street, Milwaukee, WI 53204, USA, Tel: (1) 414 382-2000, Fax: (1) 414 382-4444  
**European Headquarters SA/NV**, avenue Herrmann Debroux, 46, 1160 Brussels, Belgium, Tel: (32) 2 663 06 00, Fax: (32) 2 663 06 40  
**Asia Pacific Headquarters**, 27/F Citicorp Centre, 18 Whitfield Road, Causeway Bay, Hong Kong, Tel: (852) 2887 4788, Fax: (852) 2508 1846

**Rockwell  
Automation**